



2026年3月期 第2四半期 決算説明会

2025年11月27日

証券コード **5161**

西川ゴム工業株式会社
NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.

目次



1 会社概要

2 2026年3月期 第2四半期決算概要・業績予想

2026年3月期 配当予想

3 2030年 グローバル中長期経営計画への 取り組み・トピックス

4 Appendix

1

会社概要



会社概要

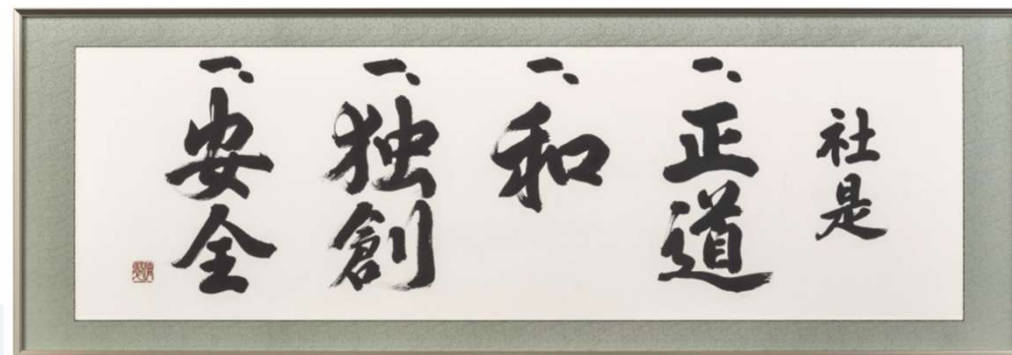


商 号	西川ゴム工業株式会社 (NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.)
本 社	広島県広島市西区三篠町二丁目2番8号
創 立 年 月 日	1934年12月1日 西川護謨工業所として創立 1949年4月26日 株式会社に組織変更, 商号を西川ゴム工業株式会社に改称
代 表	代表取締役社長 社長執行役員 小川秀樹
資 本 金	3,364,480,660円
市場区分	東証スタンダード市場 (証券コード 5161)
従業員数 (連結)	6,807名 (2025年3月末時点)
事業内容	自動車用シール材及び一般産業資材製品の 設計・開発, 製造, 販売

拠点一覧



- | | |
|--|--|
| ① NISHIKAWA COOPER LLC (米国) | ⑦ 湖北西川密封系統有限公司 (中国) |
| ② Nishikawa of America, Inc. (米国) | ⑧ NISHIKAWA SEALING SYSTEMS MEXICO S.A. DE C.V. (メキシコ) |
| ③ Nishikawa Tachapalalert Cooper Ltd. (タイ) | ⑨ PT. NISHIKAWA KARYA INDONESIA (インドネシア) |
| ④ 上海西川密封件有限公司 (中国) | ⑩ NISHIKAWA RUBBER CO.,LTD. Europe Branch (英国) |
| ⑤ 広州西川密封件有限公司 (中国) | ⑪ ALP NISHIKAWA CO., PVT. LTD. (インド) ※持分法適用会社 |
| ⑥ 西川橡胶(上海)有限公司 (中国) | |



正道

我々は 常に正道に立って社業を運営し
会社の真の発展は社会の福祉 世界の進運に
寄与しうるものでなければならない

独創

我々は 企業の生命が独創と意気にあることを認知して
自らの仕事に誇りと責任を持ち
また反面事を処するに当っては 謙虚な気持でこれに向わねばならない

和

我々は 共に会社の根幹であることを認識して
「和の心」をもって相寄り相助け
互いに善意と良識をもって一致協力することが 何より大切である

安全

我々は 各個人の幸福が 会社全体の繁栄を基盤にして
初めてきずかれることを知りすべて会社の組織を重んじ
規律に従い冗費を省き 災害防止に万全を期し
もって堅実にしてまじめな
また自由にして秩序正しい社風を培ってゆくことが必要である

ニーチェの言葉

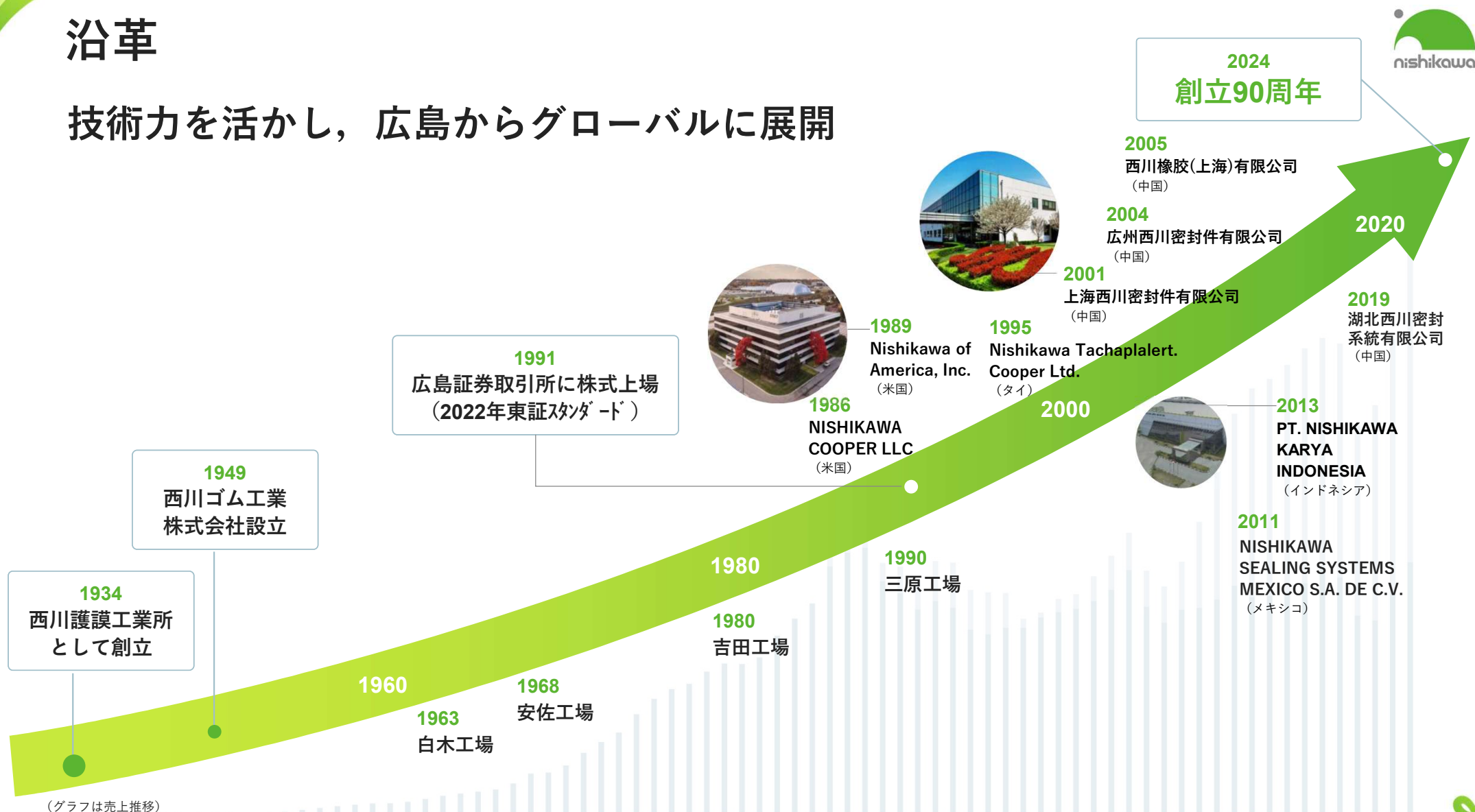
己の立てる所を深く掘れ
そこに必ず泉あらん



Friedrich Nietzsche.

沿革

技術力を活かし，広島からグローバルに展開



主要製品/取引先

一般産業資材事業

自動車用部品事業で培った
発泡技術を様々な分野で展開



目地ガスケット



化粧用パフ

3%

97%

事業別
売上比率
(2024年度)

自動車用部品事業

自動車のドアシール製品分野
業界国内トップシェア

(当社調べ)

ドアウェザーストリップ



ドアアウターシール



ドアアウターシール
(オープンカー用)



ガラスランチャネル



コンバーチブルヘッダー
(オープンカー用)

取引先別売上比率

(2024年度実績)

Toyota	Honda	MAZDA	Nissan	その他
25%	22%	14%	12%	27%

業界でのポジション



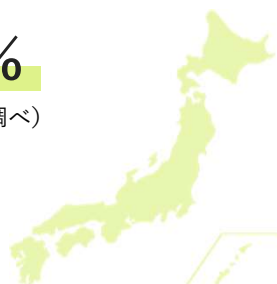
独立系サプライヤーとして培った技術力で、グローバルニッチトップ企業へ

国内

日本車への当社製品シェア率

43%

(2024年 当社調べ)



海外

日系自動車メーカーを中心に売上を拡大

日本車装着シェア

■ 北 米 **35%** ■ 東アジア **29%**

■ 東南アジア **39%**

※シェアは、日本車の内、当社製品が装着されている割合を示す（2024年 当社調べ）



株価および出来高の推移

2025年2月10日に『2030年 グローバル中長期経営計画』の追補版を公表後、PBR1倍を達成
2025年4月 1日を効力発生日として、当社普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を実施



注：上記株式分割に伴い、2025年3月27日以前の株価および出来高はいずれも分割後ベースで調整した数値を使用

2

2026年3月期
業績予想

第2四半期決算概要・

2026年3月期第2四半期 決算ハイライト



- 売上高と営業利益は、為替が円高に推移したことおよび当社受注車種の影響により前年同期比で減収・減益
- 経常利益は前年の為替差損が為替差益に転じたことにより増益
- 親会社株主に帰属する中間純利益は、過年度法人税等の還付により大幅に増益

売上高

5期ぶり減収
573億円

前年同期比 **6.3%減**

営業利益

3期ぶり減益
39億円

前年同期比 **3.0%減**

経常利益

3期連続増益
47億円

前年同期比 **26.6%増**

親会社株主に帰属する 中間純利益

3期連続増益
42億円

前年同期比 **105.1%増**

2026年3月期第2四半期 連結業績



売上高・営業利益は前年同期比で減収・減益も、期初予想を上回って着地

	前年同期実績 2025年3月期 第2四半期	期初予想 2026年3月期 第2四半期	当期実績 2026年3月期 第2四半期	前年同期比 上段:増減額 下段:増減率	期初予想比 上段:増減額 下段:増減率
売上高（百万円）	61,216	55,000	57,349	△3,867 △6.3%	2,349 4.3%
営業利益（百万円） （営業利益率）	4,102 (6.7%)	3,000 (5.5%)	3,979 (6.9%)	△122 △3.0%	979 32.7%
経常利益（百万円）	3,741	3,700	4,736	995 26.6%	1,036 28.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益（百万円）	2,090	2,200	4,289	2,198 105.1%	2,089 95.0%
自己資本比率	2025年 3月期末 63.5%	—	58.7%	△4.8pt	—
<参考> PBR	0.40倍 (2025年3月期末 1.08倍)	—	1.36倍	—	—

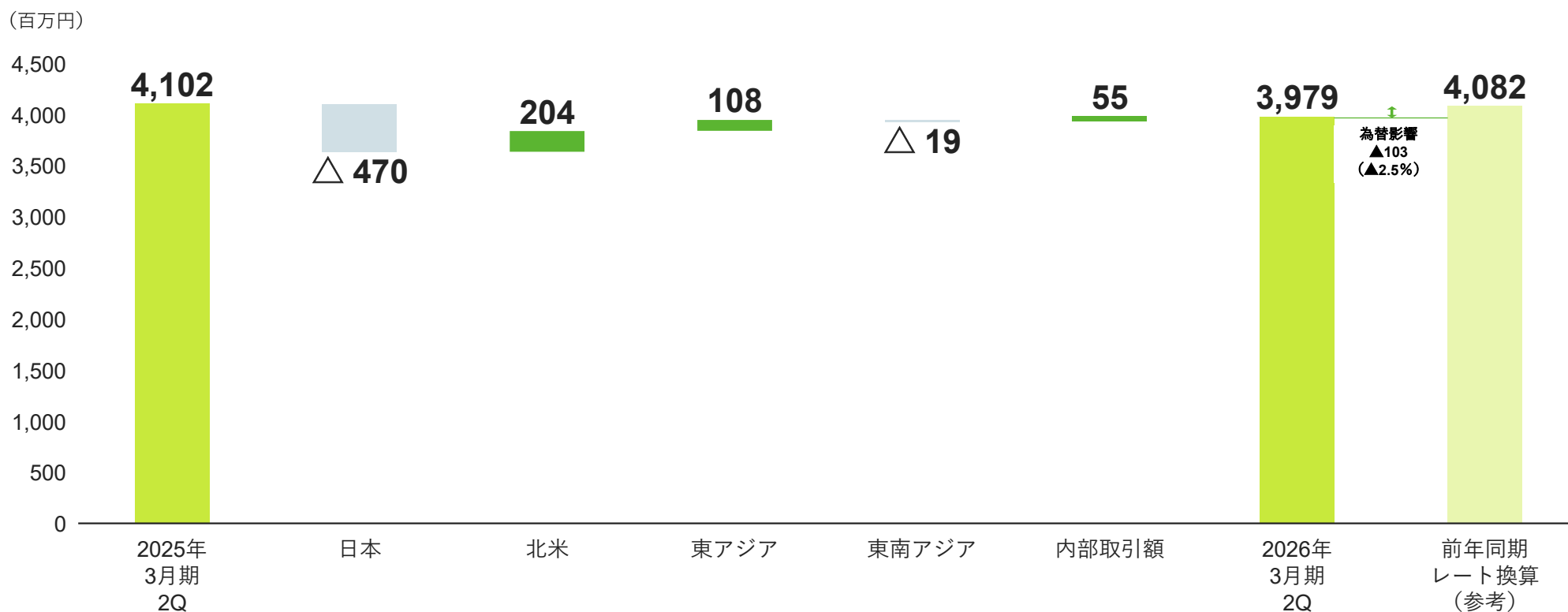
注：為替レート（対米国ドル/円）

2024年6月末 161.07円

2025年6月末 144.81円

営業利益の増減要因

日本セグメントの減益影響を受けるも、北米・東アジアセグメントの業績改善により
マイナス幅を縮小



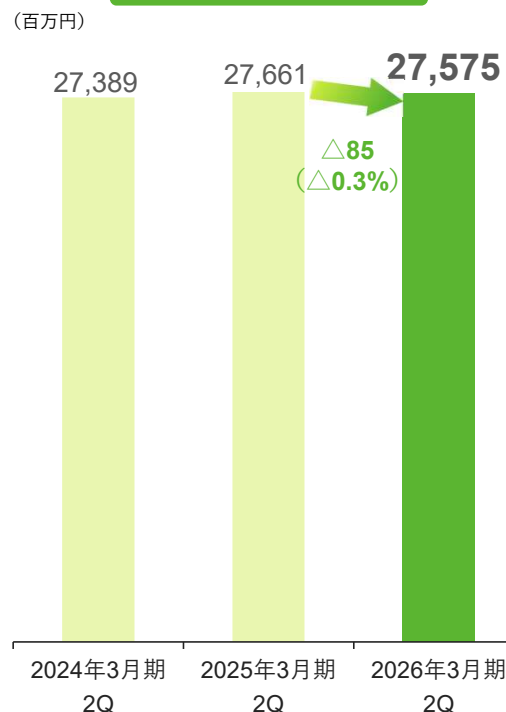
セグメント概況（日本）

売上高は受注車種の影響などにより、27,575百万円

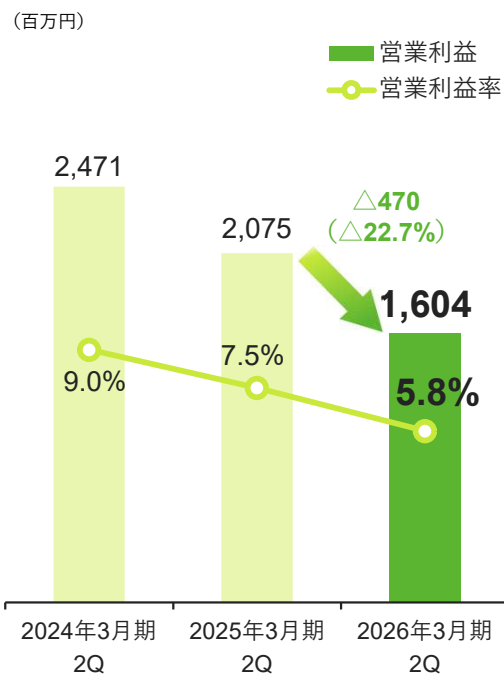
営業利益は労務コスト上昇等の影響を受け、1,604百万円と減益



売上高



営業利益



2026年3月期第2四半期概況

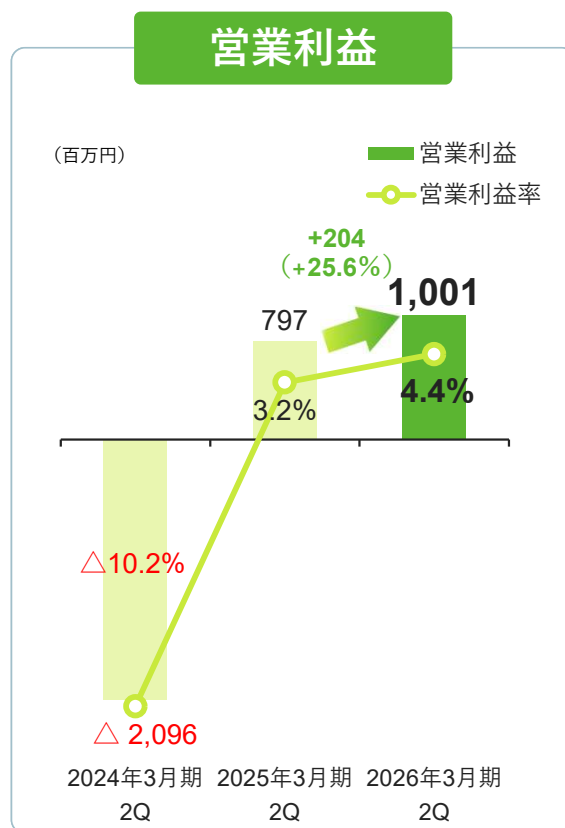
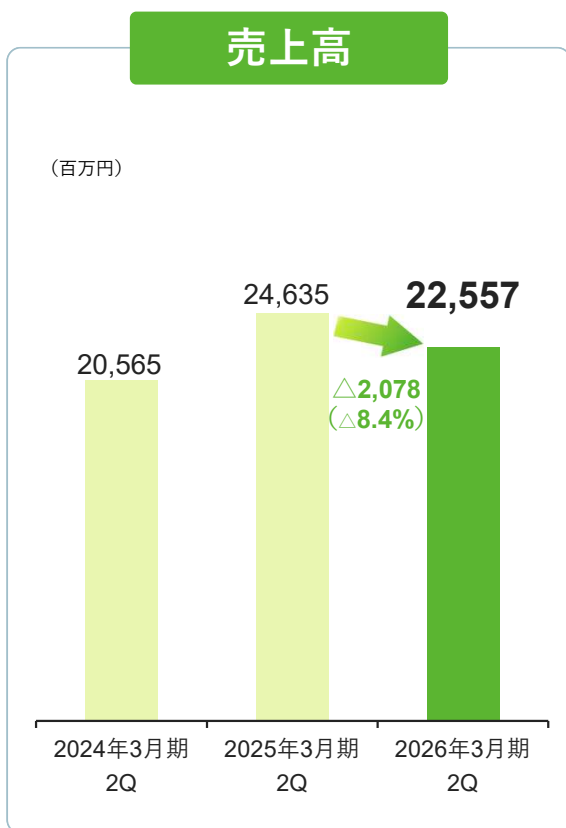
自動車生産台数は、概ね前年並みでしたが、当社受注車種の影響などにより、売上高は27,575百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

また、労務コストの上昇などにより営業利益は1,604百万円（前年同期比22.7%減）となりました。

下期は半導体供給懸念による売上高が落ち込むリスクがあるため、固定費の抑制を図るとともに、引き続き、中長期経営計画の戦略（高効率生産設備導入等）を確実に推進し、収益力の向上を図ります。

セグメント概況（北米）

売上高は為替および自動車生産台数減の影響を受け、22,557百万円
営業利益はメキシコ拠点の業績回復により、1,001百万円と増益



2026年3月期第2四半期概況

邦貨換算為替レートの影響および自動車生産台数が前年同期比で減少したことにより、売上高は22,557百万円（前年同期比8.4%減）となりましたが、メキシコ拠点の業績回復により、営業利益は1,001百万円（前年同期比25.6%増）となりました。

半導体の供給懸念により売上、利益が落ち込む懸念があるため、引き続き、設備保全体制の強化や、人員適正化、人員定着率向上による生産性向上を図り、収益力の強化を図ります。

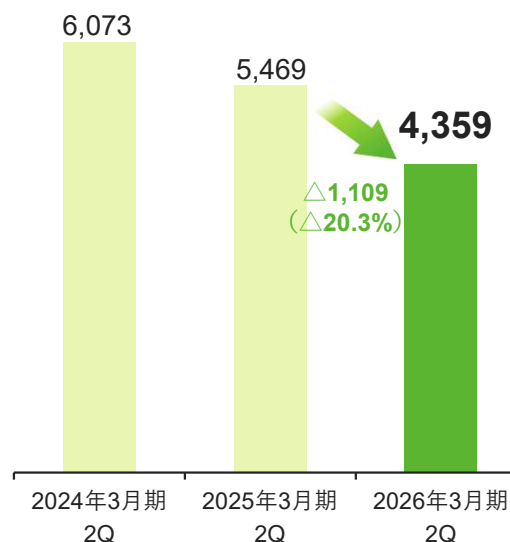
セグメント概況（東アジア）

売上高は日本車の減産影響により，4,359百万円

営業利益は拠点内生産最適化の推進など合理化活動の継続により，
178百万円と増益

売上高

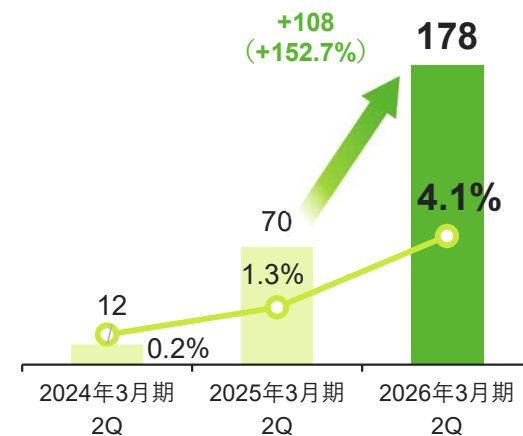
(百万円)



営業利益

(百万円)

■ 営業利益
● 営業利益率



2026年3月期第2四半期概況

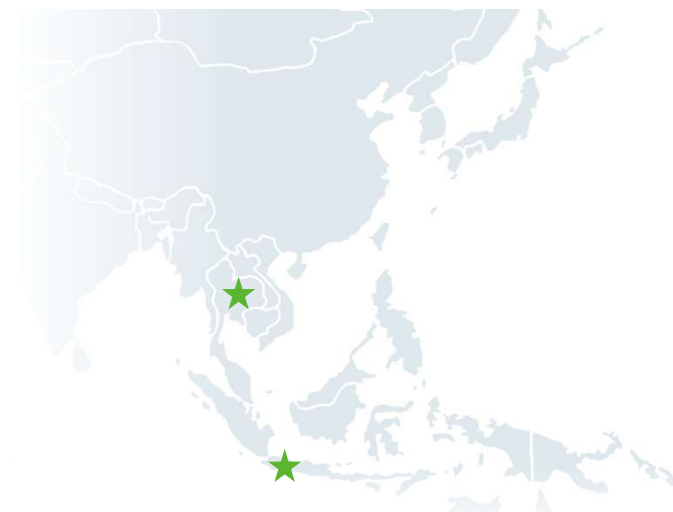
自動車生産台数が前年同期比で増加しましたが，日本車生産台数の減少などにより，売上高は4,359百万円（前年同期比20.3%減）となりました。
しかしながら，拠点内生産最適化の推進など合理化活動の継続により，営業利益は178百万円（前年同期比152.7%増）となりました。

湖北西川第2工場の稼働開始によって，さらなる価格競争力の向上を図るとともに，引き続き，中長期経営計画で掲げている欧州戦略スキーム（※）を実行し，売上拡大を図ります。

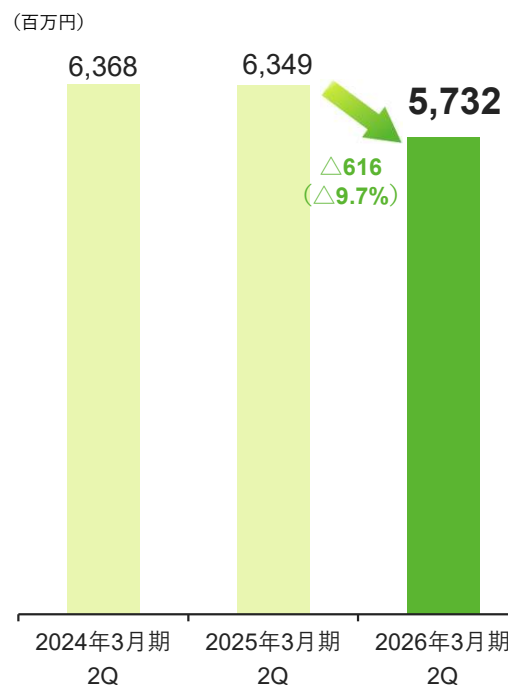
※欧州戦略スキーム：欧州に生産拠点を持たず，中国で生産し，欧州に製品輸出をするスキーム。

セグメント概況（東南アジア）

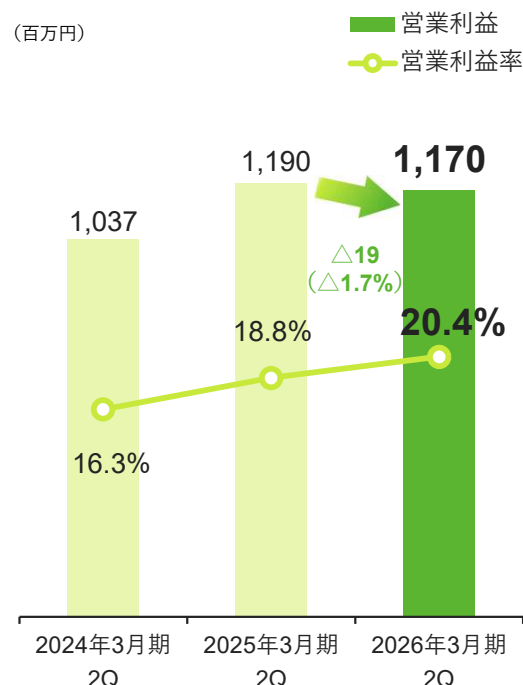
売上高は自動車生産台数の減少により，5,732百万円
営業利益は売上減の影響により，1,170百万円と減益



売上高



営業利益



2026年3月期第2四半期概況

自動車生産台数が前年同期比で減少したことにより，売上高は5,732百万円（前年同期比9.7%減）となり，営業利益は1,170百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

2026年1月以降，インドネシア拠点での樹脂押出ラインを稼働しコスト削減による収益向上を図ります。

損益計算書（連結）

為替が寄与した結果，営業外費用が縮小し経常利益は増益
過年度法人税等の還付により，親会社株主に帰属する中間純利益は大幅増益

(百万円)	2025年3月期第2四半期	2026年3月期第2四半期	増減額
売上高	61,216	57,349	△3,867
売上原価	50,187	46,627	△3,560
売上総利益	11,028	10,722	△306
販売費及び一般管理費	6,926	6,742	△184
営業利益	4,102	3,979	△122
営業外収益	1,012	1,331	318
営業外費用	1,373	574	△799
経常利益	3,741	4,736	995
特別利益	2	10	8
特別損失	3	0	△2
税金等調整前中間純利益	3,739	4,746	1,006
法人税，住民税及び事業税	793	853	60
過年度法人税等	—	△1,139	△1,139
法人税等調整額	508	159	△348
非支配株主に帰属する中間純利益	346	582	235
親会社株主に帰属する中間純利益	2,090	4,289	2,198



貸借対照表（連結）

2025年9月における自己株式の取得（7,404百万円）等により，株主資本が減少

(百万円)	2025年3月期末	2026年3月期第2四半期	増減額
現金及び預金	47,808	45,931	△1,876
売掛債権及びその他債権	16,796	16,896	100
棚卸資産	7,354	7,120	△234
有形及び無形固定資産	31,004	29,845	△1,158
投資有価証券	22,877	27,355	4,478
その他資産	12,559	13,165	605
資産合計	138,400	140,315	1,914
買掛債務	10,122	9,788	△334
借入債務	18,426	24,831	6,404
その他債務	18,130	19,521	1,391
負債合計	46,679	54,141	7,462
株主資本	66,543	59,970	△6,573
その他包括利益	21,392	22,367	975
非支配株主持分	3,785	3,836	50
純資産合計	91,721	86,174	△5,547
負債・純資産合計	138,400	140,315	1,914



2026年3月期 業績予想（2025年11月13日発表）

第2四半期で売上・利益ともに計画を上回ったものの、
通期業績予想は下期における半導体の供給不足懸念による減産リスクを見込む

	前回発表予想 (2025年5月公表)	今回修正予想	増減額	増減率	参考：前期実績 (2025年3月期)
売上高（百万円）	110,000	112,000	2,000	1.8%	120,639
営業利益（百万円） （営業利益率）	6,600 (6.0%)	6,700 (6.0%)	100	1.5%	7,324 (6.1%)
経常利益（百万円）	8,000	8,300	300	3.8%	7,617
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	4,200	6,000	1,800	42.9%	3,957
1株当たり当期純利益（円）	108.77	169.70	—	—	102.49

注1：為替レート（対米国ドル/円）

2024年12月末 158.18円

2025年 3月末 149.52円 2026年3月期 想定レート 148.88円

注2：当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2025年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益（円）を算定しております。

3

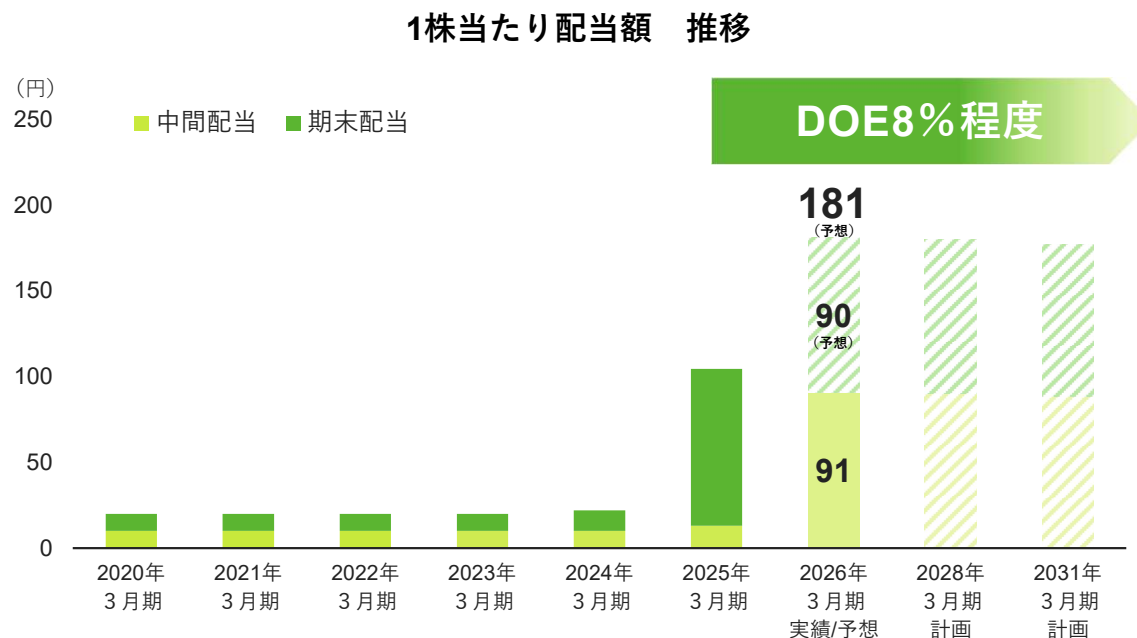
2026年3月期 配当予想 2030年 グローバル中長期経営計画 への取り組み・トピックス

2026年3月期 配当予想（2025年11月13日発表）

連結の株主資本配当率（DOE）を年間8%程度とする配当方針に従い、
中間配当は2026年3月期第2四半期の株主資本等に4%を乗じた金額を配当

	2026年3月期 1株当たり配当額		
	中 間	期 末	合 計
前回予想	92 円	92 円	184 円
当期実績	91 円	—	—
今回予想	—	90 円	181 円
前期実績 (2025年3月期)	13 円	91.5円	104.5円

注：当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。
上記の前期実績および右記の1株当たり配当額の推移は、2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、中間配当・期末配当額を表示しております。



中長期経営計画で掲げた自己株式取得計画を繰り上げ、2025年9月に240万株（発行済株式総数の6%）の自己株式を7,404百万円で取得したことにより、株主資本等は減少
その影響額を踏まえ、今回の中間配当・期末配当予想の見直しを実施

中長期経営計画 追補版の概要

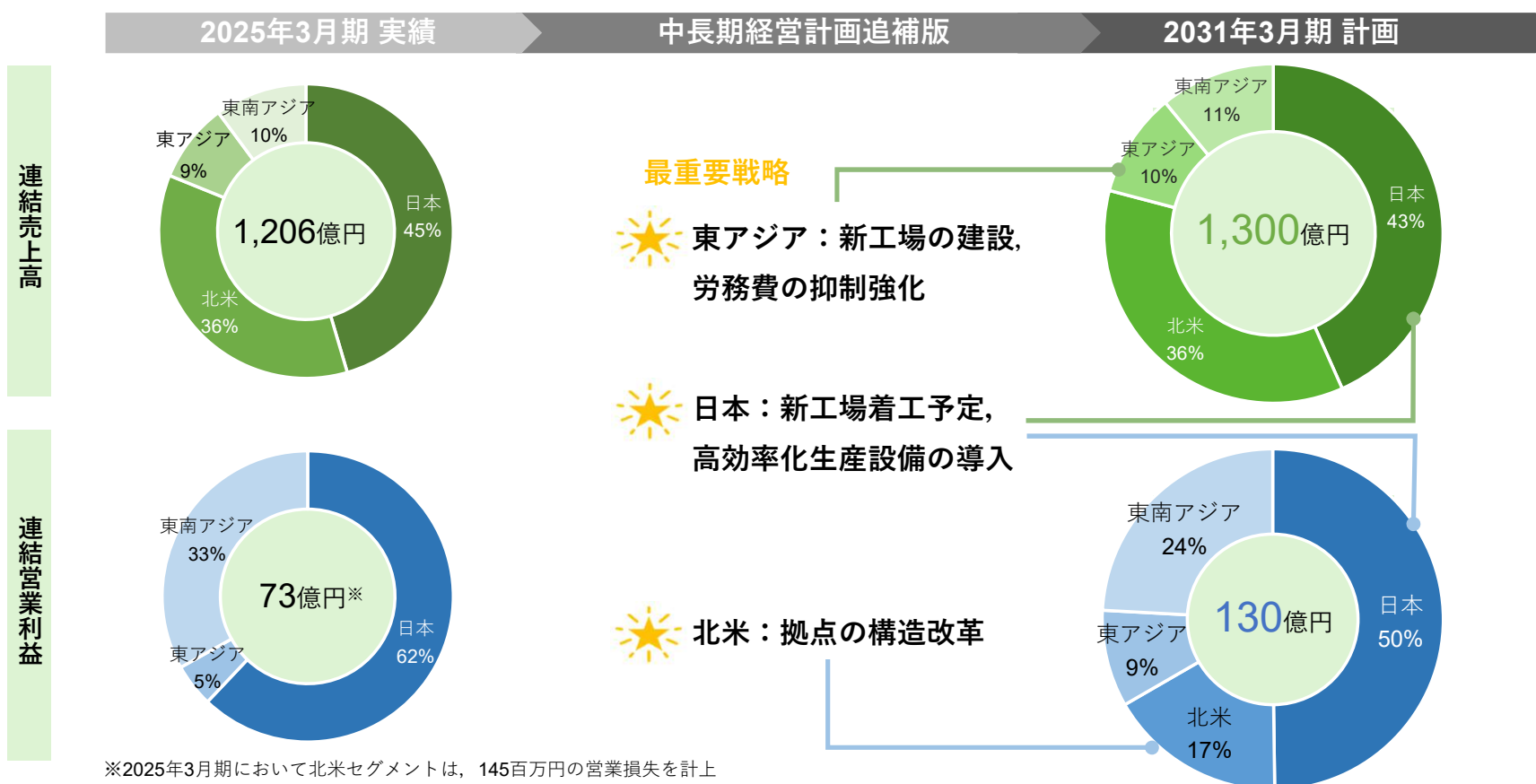


資本コストを低下させ、ROEおよびROICの確実な達成を狙う目的から、KGIとして最適な自己資本比率を55%と定め2031年3月期までの達成を目指します

KGI(連結) 重要目標達成指標	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	2028年3月期 中期目標	2031年3月期 長期目標
売上高（百万円）	117,904	120,639	112,000	125,000	130,000
営業利益（百万円）	6,555	7,324	6,700	10,000	13,000
営業利益率	5.6%	6.1%	6.0%	8.0%	10.0%
ROE	6.4%	4.6%	—	8.0%	9.0%
ROIC	4.4%	4.7%	—	7.0%	8.0%
自己資本比率	61.4%	63.5%	—	60.0%	55.0%

成長戦略ストーリー（全体像）

直近の最重要課題は北米事業の構造改革であり、米国は新工場建設により平常化の目途が立ったため、メキシコの黒字化に注力することで計画の実現を目指します

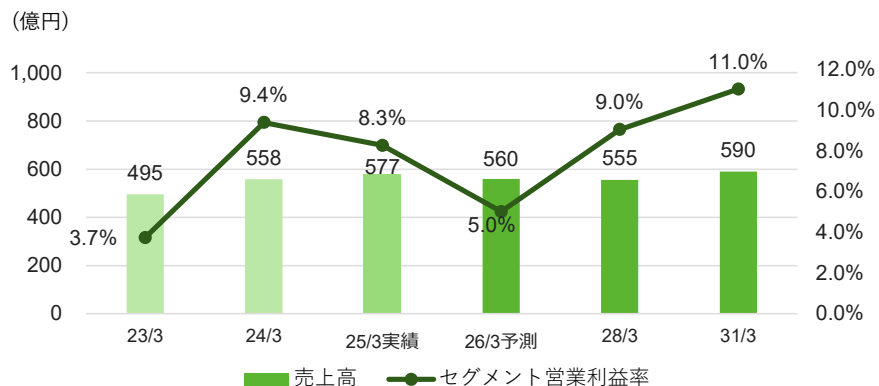


セグメント別事業戦略 | 日本

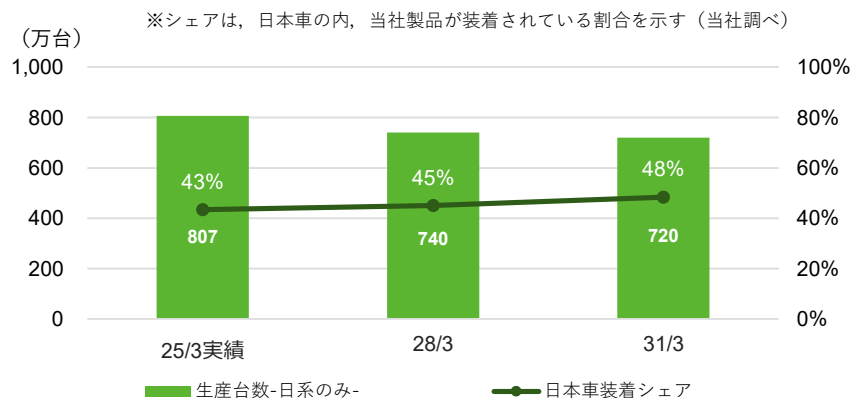


新技術を投入し，収益力向上，シェア向上を実現する

日本セグメント 売上高・営業利益率



日本セグメント シェア率※



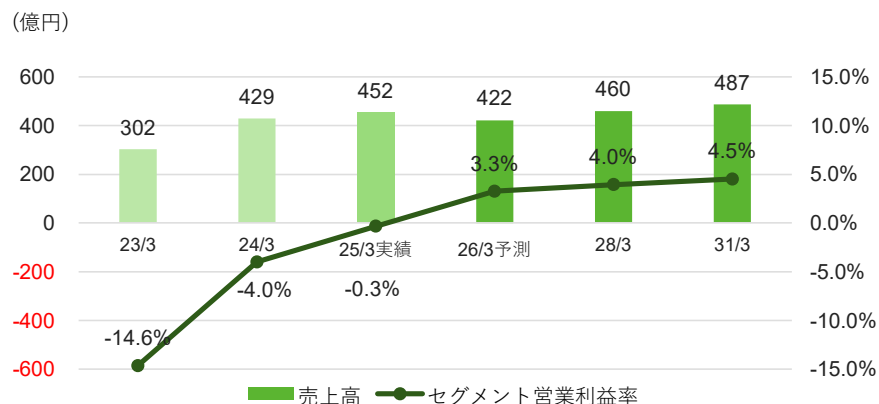
主な戦略	財務効果	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
E ^{Square} ®ブランド戦略	売上拡大 シェア向上	国内外OEMプレゼン実施 海外拠点への技術移転		E ^{Square} ® 製品の採用	E ^{Square} ®製品の量産			
生成AIを活用した製品/金型設計, 材料開発等の加速	製造間接費低減	生成AI 環境構築	技術伝承ナレッジ 運用開始	製品/金型設計, 材料開発等の領域へ運用拡大				
マテリアルリサイクル技術	非財務 ESG推進	リサイクル 技術確立	再生材の量産品適用に 向けた検証		再生材の量産品適用／適用製品の拡大			
最新生産システム導入	成長投資	新工場の構想検討						新工場着工
		高速押出設備の導入		高効率生産設備の拡大／ロボットによる省人化				

セグメント別事業戦略 | 北米

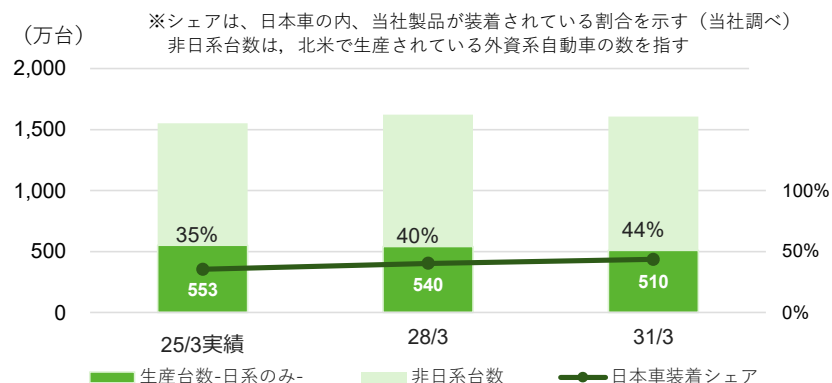


安定供給体制の構築，ガバナンス改善により収益安定化を図る

北米セグメント 売上高・営業利益率



北米セグメント シェア率※

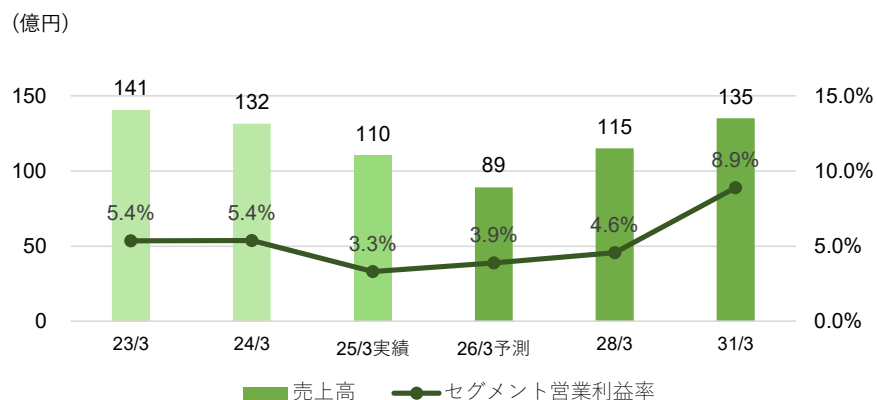


主な戦略	財務効果	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
設備保全戦略 (生産体制の再構築と設備更新)	成長投資 製造原価低減	アメリカ新工場が安定し、生産性向上		老朽設備の更新，省エネ設備，高生産効率設備の導入推進				
人的資源戦略 (グループ会社支援による生産体制の改善等)	製造オペレーション改善による製造原価低減	マネジメント人材の採用	本社およびグループ会社による相互支援，教育					
全社リスク，危機に対する体制強化の為，ERM（リスクマネジメントの仕組）を構築	非財務ガバナンス向上	ERM関連規定の整備完了	ERM試験運用	ERM本格運用	ERM運用定着			

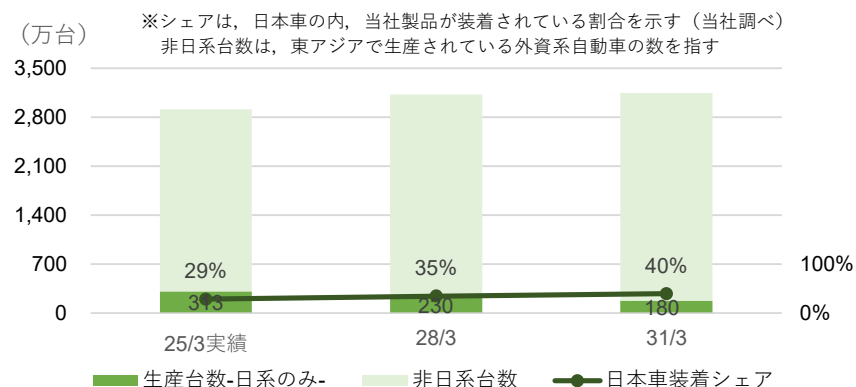
セグメント別事業戦略 | 東アジア

湖北西川第2工場の稼働により，コスト競争力を高める

東アジアセグメント 売上高・営業利益率



東アジアセグメント シェア率※



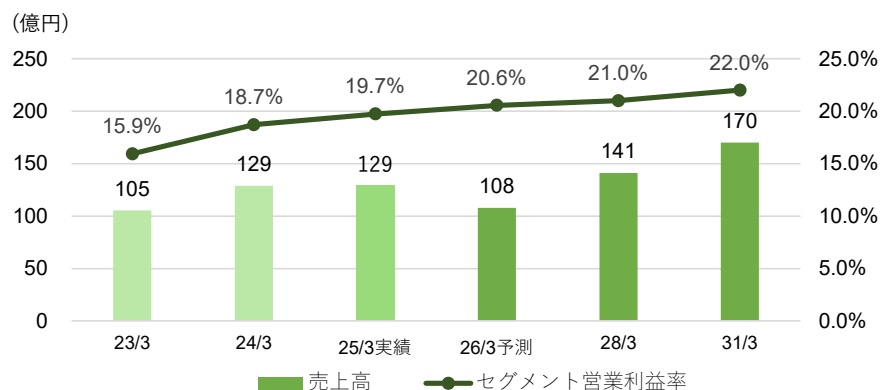
主な戦略	財務効果	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
中国内陸部に新工場建設	製造原価低減	工場建設完了	工程整備	25年9月～稼働開始				
欧州自動車メーカーへの輸出販売	売上拡大	継続的に受注活動						
			新規受注		量産開始予定			

セグメント別事業戦略 | 東南アジア

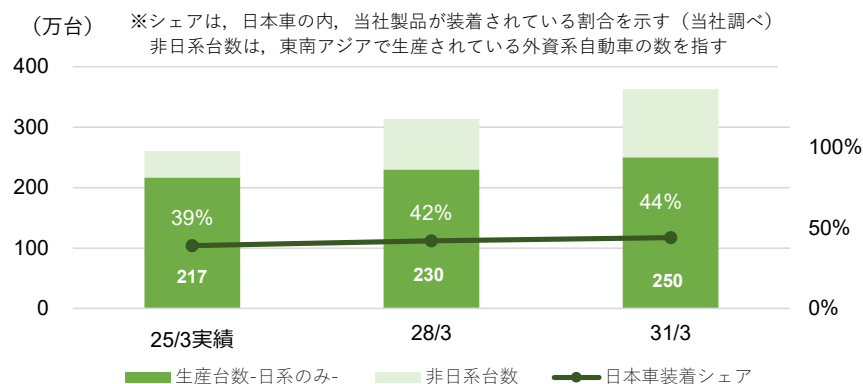


インドネシア拠点の内製化比率向上により、安定収益を確保する

東南アジアセグメント 売上高・営業利益率



東南アジアセグメント シェア率※



主な戦略	財務効果	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
日系以外の新規受注	売上拡大	継続的に受注活動						
樹脂製品の押出生産設備を タイ子会社からインドネシア子会 社へ移設	製造原価低減	設備 移設完了	工程 整備	26年1月～ 稼働開始				

資本政策 | 株主還元



資本政策

配当方針

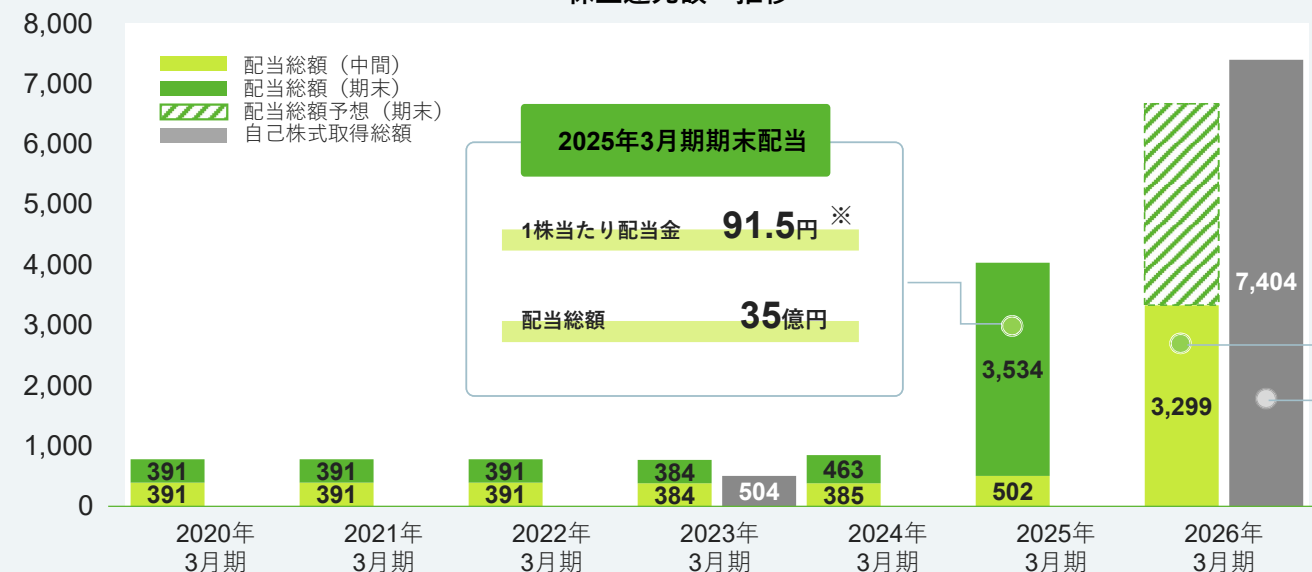
2025年3月期から **DOE 8%** 程度の配当実施

自己株式取得

2026年3月期から**6年間で発行済株式総数の6%**実施

(百万円)

株主還元額 推移



2026年3月期中間配当

1株当たり配当金 **91円**

配当総額 **33億円**

自己株式 取得 (2025年9月9日実施)

**目標取得数
達成**

取得株式総数 **240万株**
(発行済株式総数に対する割合 6%)

取得価額総額 **74億円**

2025年10月31日に299万株（発行済株式総数の7.48%）の消却を実行

※2025年4月1日に実施した株式分割（当社普通株式1株につき2株の割合で分割）の影響を調整した額で表示しております。

ガバナンス体制 | 取締役会，取締役・執行役員スキル要件

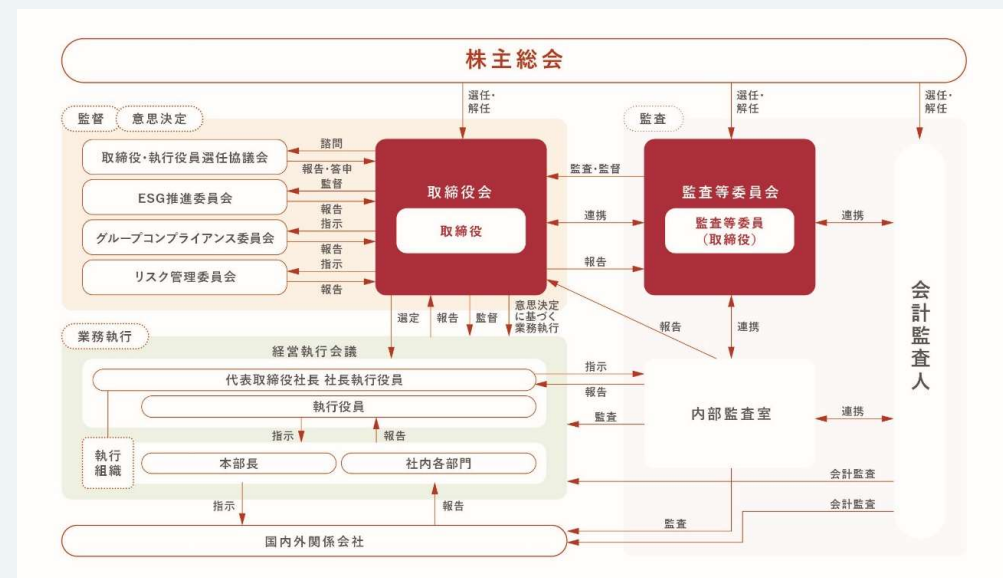
ガバナンスの高度化

実行完了

- ・ 監督機能と執行機能の明確化を図るため，社内取締役の減員と独立社外取締役比率の引き上げ
- ・ 新たに女性取締役 1 名を選任
- ・ 業務執行の機動性を高めるため，これまで取締役会が有していた業務執行機能を，新たに設置した経営執行会議に委譲
- ・ 取締役・執行役員のスキル要件の定義

今後の取り組み

- ・ 取締役会実効性評価の実施による「あるべき取締役会像」の明確化
- ・ 経営幹部候補の育成



コーポレートガバナンス体制図

サステナブル経営の推進



社会や環境の変化に対応しながら、未来に向けて以下ESGの取り組みを進めております

	重要課題（マテリアリティ）	主な取り組み	指標および管理項目	2024年度実績	2027年度目標	2030年度目標
E	脱炭素企業への挑戦	省エネ活動，再エネ購入 太陽光発電導入 低排出量燃料への置換	国内：CO ₂ 排出量削減率 Scope1+2（2013年度比）	30%削減	35%削減	46%削減
	産業廃棄物発生量の最小化	マテリアルリサイクル 軽量化製品の拡販 歩留改善など	単体：産業廃棄物発生量 削減率（2013年度比）	43%削減	46%削減	55%削減
S	ダイバーシティの推進	ダイバーシティ， エクイティ＆インクルージョン	単体：女性管理職比率 単体：障がい者雇用率	3.1% 2.6%	7.0% 法定雇用率を上回る雇用	15.0%
	人権尊重	サプライチェーン全体の 人権DD推進	グローバル：児童労働・ 強制労働・人身売買，不正件数	0件	0件	0件
	働き方改革	健康経営 職場環境改善 キャリア開発	単体： ワーク・エンゲイジメントスコア （当社基準）	67%	68%以上	69%以上
	コンプライアンスの徹底	コンプライアンス研修 法令改正通信配信 理解度テスト	グローバル： 汚職防止，競争法，下請法， 知財法等の違反件数，不正件数	0件	0件	0件
G	内部統制の強化と 適切な情報発信	組織の再構築 ルール整備 適切な情報開示	グローバル： サステナビリティ評価外部機関 EcoVadis 評価スコア	61点	65点以上	68点以上
	リスクマネジメントの強化	ERM，危機管理規定整備 サイバーセキュリティの強化	単体：関連規定類の整備 グローバル：重大インシデント件数	整備完了 0件	0件	0件

(ご参考) 新ブランド E²quare[®]



電気自動車向け製品の開発と環境負荷低減の両立を目指し、新技術および新製品の開発を進め統合ブランド「E²quare[®]」を誕生させ、市場シェア拡大と持続可能な成長を追求します

E for **E**lectric Vehicle
競合自動車部品メーカーとの差別化

統合ブランド
E²quare[®]

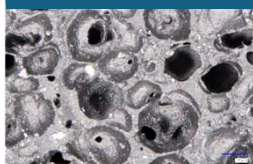
E for **E**nvironment
カーボンニュートラルの推進

各開発材で特許取得

GreenⁿRubber[®]

ゴム材料を限界まで比重低減し、
弊社従来製品より最大約25%軽量化

弊社量産品



約25%
軽量化



⇒新材料4種類を開発

GreenⁿCoat[®]

シール部品のコーティング塗料に適用
高耐久・異音防音、室内快適性を維持向上

音性能	弊社量産品と同等 音性能は形状や塗料でも性能向上※
圧縮荷重	
圧縮永久歪	

⇒新材料2種類を開発

順次

新製品技術を展開予定

「E²quare[®]」をベースに、
発泡・軽量化・複合化な
どの技術開発を推進

※当社調査に基づく。

4

Appendix



Appendix | 西川ゴム工業の主要製品



様々なシーンで活躍する、西川ゴムのシール部品

セダンやSUV、そして高い設計力が要求されるオープンカーまで様々なボディタイプのウェザーストリップに開発段階から参画し、日本の全自動車メーカーに納入実績を持つほか、その技術対応力は海外でも高い評価を頂いています。

普段はあまり目立つことのない製品ではありますが、ドライブ中の様々なシーンを支えています。

ドアアウターシール



コンバーチブルヘッダー
(オープンカー用)



ガラスランチャネル



ドアアウターシール
(オープンカー用)

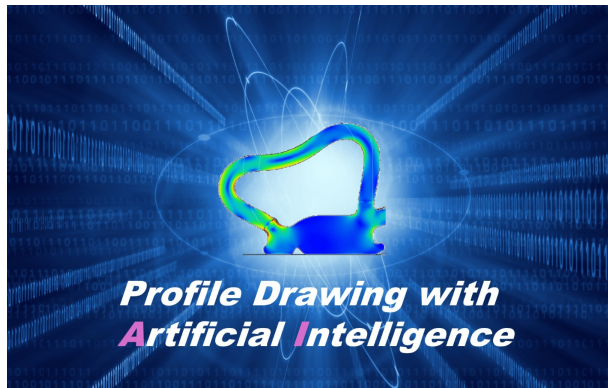


Appendix | 西川ゴム工業の技術・開発力



見えないものを見る力

シールの世界って見えにくい。およそシール部材はハウジングの内側で圧縮されて、その反力で気体や液体を封止します。だから、外からは見えないことが多い。そしてそこでの課題は、多くの場合、ユーザーにとって極めて重要な意味をもっています。

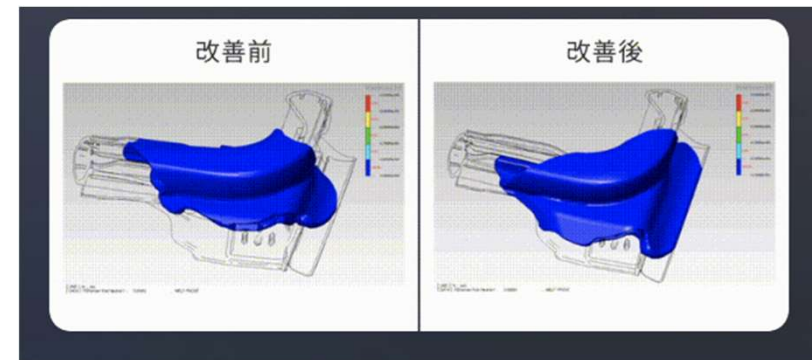


AI設計 AI Design

当社は、ウェザーストリップの断面形状設計へのAI導入にチャレンジしています。これは、CAE最適化技術とAI深層学習を融合させ、蓄積した学習ノウハウを基にシールに最適な形状設計を最速で行うものです。これにより、設計開発期間の大幅短縮を図っています。

流動解析 Flow Analysis

「水を制するものは国を制す。」
これは戦国時代の勇、武田信玄の言葉です。ここで水は流れを意味しています。私たちは、2つのコア技術「押出」「成形」の双方において、ゴムや樹脂の材料の流れを常に把握しコントロールしています。事前の流動解析をしっかりとすることで、再設計や再トライなどの手戻りのない最短最適なモノづくりが実現できています。

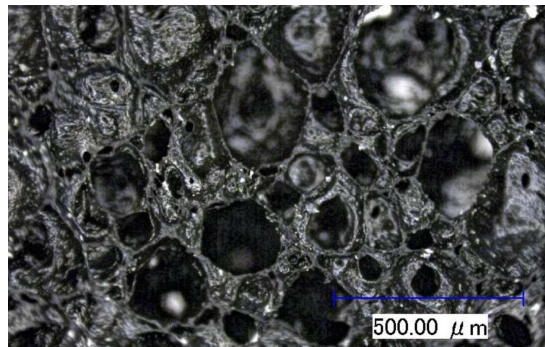


Appendix | 西川ゴム工業の技術・開発力



開発のキーセクションが、新しい風を起こす

ウェザーストリップは、主に「EPDMゴム」や「TPE」でできています。でも実はそんなに単純ではありません。そこにはいくつもの機能・役割があり、その為に材料も複数、多いものは6種類も使われます。材料・工法技術者は、その全てを把握し、さらにその先を見つめ追いつけています。

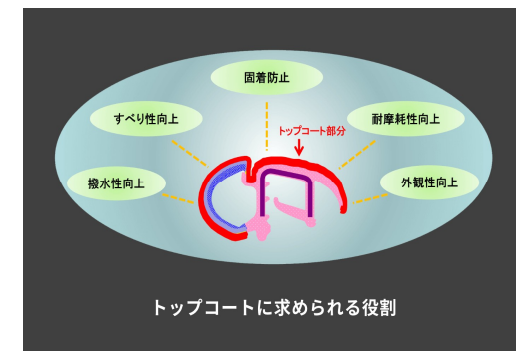


発泡へのこだわり Commitment To Foaming

当社は、ゴムでは主にEPDM（エチレンプロピレンゴム）を用いてモノづくりをしています。特に内部に気泡を持つスポンジゴムに強みを持ち、低発泡から20倍高発泡まで多種多様です。その中でも、低比重高発泡スポンジ“**Hysoft®**”は当社の代名詞で、軽量化や静粛性向上に寄与しています。

トップコート技術開発 Top-Coat Technology Development

ウェザーストリップは、全天候下で繰り返し圧縮・解放・摺動を求められる過酷なシール材で、しかもそこに外観性も必要とされます。これらをすべてクリアするためには、基幹材料のみならず、表面材料やその工法もとても重要な鍵となります。
この当社のトップコート技術は、世界オンリーワンです。



Appendix | 西川ゴム工業の技術・開発力



“ここち良さ” その先を求めて

静かなクルマがつくりたい。そのために、どこから音が入っているのか調べています。



快音の数値評価

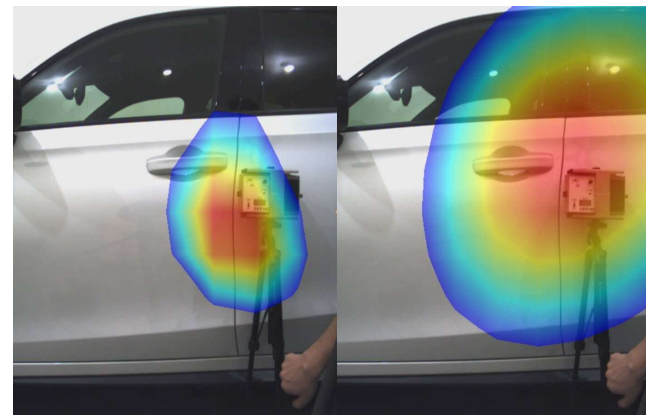
Numerical evaluation of pleasant sound

特定サーキットでの実車走行音をバイノーラル録音。これを官能評価（フィーリング評価）で統計的に数値化することで、音源の嗜好度を評価します。一般的な物理指標では現わせない心理音響指標により、快音すなわち“ここち良い音”を追究しています。

音源の可視化

Visualization of sound sources

クルマのドア閉まり音評価において、「音の見える化」を実施。ドアを閉めた際どの部位から音が発生しているか、発生音源の可視化技術を活用・解析し、クルマの商品価値向上に取り組んでいます。



Appendix | 西川ゴム工業の拠点一覧（国内）



本社／
営業拠点



① 本社／
広島営業所



② 東京営業所



③ 宇都宮営業所



④ 浜松営業所



⑤ 名古屋営業所



⑥ 大阪営業所

生産拠点



① 白木工場



② 安佐工場



③ 吉田工場



④ 三原工場

国内子会社

- 西川物産株式会社 ● 株式会社西川ビッグオーシャン ● 株式会社西和物流
- 株式会社西川ゴム山口 ● 西川デザインテクノ株式会社

Appendix | 西川ゴム工業の拠点一覧（海外）



海外 本社 / 営業所



① NISHIKAWA
COOPER LLC



② Nishikawa of
America, Inc.



③ Nishikawa
Tachaplalert
Cooper Ltd.



④ 上海西川密封件
有限公司



⑤ 広州西川密封件
有限公司



⑥ 西川橡胶(上海)
有限公司



⑦ 湖北西川密封
系統有限公司



⑧ NISHIKAWA
SEALING SYSTEMS
MEXICO S.A. DE C.V.



⑨ PT. NISHIKAWA
KARYA
INDONESIA



⑩ NISHIKAWA
RUBBER CO., LTD.
Europe Branch



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。

問合せ先

グローバル経営戦略本部 総務部長

山本 隆司

 082-237-9371